

第5回小平市健康増進計画検討委員会 議事録

○開催日時及び場所

日時：平成28年7月15日（金）午後3時から午後3時50分まで

場所：中央公民館 視聴覚室

○出席委員（欠席者 3名）

安齋 圭太郎（公募委員）

井上 斉（一般社団法人 小平市医師会）

木田 明男（小平市立小学校校長会）

高森 恵美子（公募市民）

多賀谷 守（公益社団法人 東京都小平市歯科医師会）

永野 貴久（小平市スポーツ推進委員会）

大久保 仁恵（東京都多摩小平保健所）

村上 英子（公募市民）

持溝 洋介（公募市民）

安永 明智（文化学園大学）

渡邊 直子（公募市民）

○事務局 健康福祉部健康・保険担当部長

健康推進課長

健康推進課長補佐兼予防担当係長

保健指導担当係長

健康推進担当係長

健康推進課管理栄養士

○オブザーバー 地域健康づくり推進員会長

○傍聴者 0名

○委託事業者 2名

○配布資料

資料1 （仮称）小平市健康増進計画素案

資料2 追加差替え

1 開会

委員長より会議の説明がなされ、事務局より配布資料の確認等が行われた。

2 議事

(1) 仮称) 小平市健康増進計画素案

健康推進課長が、資料1を用いて、(仮称) 小平市健康増進計画素案について説明を行った。

(分野別の健康づくりについて)

委員 58ページの「上手に付き合う」の表現だが、悩み・ストレスを容認してしまうことにならないか。

委員長 健康日本21での表現はどうなっているか。

事務局 休養、こころの健康は別分野となっており、表現の細かい確認は改めて今後行うが、休養の部分では主に睡眠について触れられている。

委員長 悩み・ストレスは、おそらく睡眠にあらわれやすいとのことで、行動的に捉えているのだと考えられる。健康日本21の第一次は休養・こころの健康は1つの分野になっていたと思うので、その辺りの確認もお願いしたい。

(全体について)

委員長 禁煙、飲酒の分野の取組数がやや少ないように感じるが、この分野の対象は働く世代が中心となるので、やはりアプローチが難しいのか。

委員 農林水産省から「農作業と健康についてのエビデンス把握手法等調査報告書」による報告がなされているが、そこには、農作業を通じ、身体活動量が多くなる、食事のバランスが良くなる、幸福度が高くなる、近所づきあいが多くなるという効果があるとされている。小平市でも市民菜園などの農作業活動を行うことで、地域のつながりなどにも効果あることを計画内で取り上げてはどうか。

事務局 複数の分野にまたがるものであると思うので、再掲を含めて検討したい。

委員長 禁煙の分野では、禁煙外来についてのHP掲載を検討してはどうか。禁煙は、たばこをやめたい人が自主的に行うものであると国からも方向性が示されているので、HPを充実させるのも1つの考えであると思う。

委員 こだ健体操の認知度向上についてだが、取組では大人が対象となっているものが多くみられるので、小中学校などの子どもにも目を向けて良いと思う。それを通じて、家族を巻き込んでいくという方向性はどうか。

事務局 それらに関する取組については、これまでも検討を行ってきており、実施には教育委員会等と調整を進めていく必要があると考えている。

委員 学校では、それらに類する取組が多くあるので、実際に行うとすれば、組織的に

行っていく必要があると考えている。ちなみにだが、市民まつりなどでこだ健体操の普及を行ってはどうか。

事務局 こだ健体操は、これまで普及啓発に努めるとともに、指導者育成も進めてきており、秋からはそれらの指導員が自立していく段階に入る。この前の段階として、小学校の運動会などで準備体操として採用し、そこに来る保護者を巻き込み普及していく取組は有効であると考えている。先日のニュースポーツデーでも、こだ健体操を行ったが、子どもは覚えが早く、小学校でやっても良いと話していた。

委員長 認知度を上げるため、いろいろなチャンネルを使うことは良いことである。

委員長 飲酒の分野についてだが、普及啓発の取組はみられるが、健康事業を行うことはやはり難しいのか。ちなみにだが、未成年については、保健体育の授業の中で飲酒に対する教育を行っているのか。

委員 保健体育の授業の中で行っている。飲酒についてのリーフレットがあり、それは子ども向け、保護者向けのものがあり、これを利用している。

事務局 飲酒に関しては、アルコールを多量に摂取する人をどのように見つけてくるかという点に難しさがあると感じている。

委員長 厚生労働省からはアルコールの適正量が示されているので、リーフレットで周知していくことが、やはり有効になると考えられる。

3 その他

事務局から、今後のスケジュールが説明された。